

書塾の仲間たち

第 229 回

せいせんかい 清泉会（愛知県豊橋市）



●書塾からひとこと●

清泉会は、愛知県豊橋市汐田校区市民館で月曜日から木曜日、幼児から一般までの対象に硬筆・毛筆のお稽古をしております。豊橋は筆の名産地であり、書の環境に恵まれた地域です。

「字を書くのが好きになる。」これが私の教室の目標です。普段のお稽古では美しい文字を書くこと、作品に自分らしさを出すことを求め、書く楽しみや見る楽しみ、重要性（活字にはない温かみ）を感じていただこうと思い、毎年、書作品の制作に取り組んでいます。うちわ、カレンダー、年賀状、母の日・父の日の手紙等々…。家族が褒めてくれたとか喜んでくれたという話を聞くと、私自身も嬉しい限りです。

月刊「書写書道」は、自信をもっておすすめできる競書誌だと思っています。毎年、豊橋市内の小中学校では恒例の競書会があります。前回はわが書塾の児童の 85・7% が入賞できました。学年代表の児童も当会から選出され、とても誇りに思っています。これも「書写書道」の美しいお手本で日々の練習ができるおかげです。

去年から一月三日に豊橋市有形文化財の商家「駒屋」で「子ども書芸」が開催されるようになりました。清泉会からも二年連続で半数の教え子が出場し、大変貴重な体験ができました。

「継続は力なり」の言葉通り、書を続けることは自信につながると思っております。多くの方に書の魅力を感じていただけるよう、今後とも切磋琢磨して作品発表に取り組んでいこうと考えております。

自由な作品制作も基礎があつてこそ成り立つものだと思うので私自身も知識と技術向上を目指して、毎日筆をとり精進します。

今年、豊橋市杉山町に新教室を開くので、新たな出会いがとても楽しみです。

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。
清泉会
主宰 永田 涼泉

私は当時習っていた姉の影響を受け、小学二年の頃から書道教室に通い始めました。小さい頃から文字を書くことが好きなので、今まで続けることができました。まだ習っていないかった頃は、書星会に出しても特選でしたが、習い始めてから、上位賞の書星会賞がいただけるようになりました。過去の自分の書いた字を見ると上達しているのが目に見えて分かり、すぐうれしくなりました。

現在、高校二年で、教室の小学生たちに教えるお手伝いをしています。教えながらも新たな発見があり、とても勉強になっています。

書道はお手本を見て真似して書くだけの作業のように見えますが、文字の一画一画が難しく、極めるのは大変なことなのだと実感します。高校生になって一般の部への提出が始まりました。これまでと違い、楷、行、草、漢字仮名交じりに挑戦しています。色々な書体を学べるようになり、ますます面白くなってきました。筆の使い方次第で様々な書きぶりができるようになり、また、新たな発見がありました。役に立っているのが実感出来るのがうれしいです。

書道を習う前は、夢中になれることが少なかったのですが、書道を続けていくうち、昇級する喜びや、日本武道館での書初め大会に出場したり、ワクワクする体験をさせていただきました。書道を続けて本当によかったです。高校では書道部に入り、さらに力をつけていくよう、これからも頑張ろうと思います。コロナ感染症が早く収まって、正月に日本武道館での書初め大会に行くことを楽しみにしています。

書道はむずかしいけど楽しい

千葉県立松戸向陽高等学校二年 伊藤 愛実 まい実



私と書写書道 第229回

楽しい書き方教室

東京都江東区立砂町小学校三年 大川 心葉 こは



わたしは、ようち園の年中のときから書き方教室に通いはじめました。通いはじめたきっかけは、お姉ちゃんがさいしょに教室でならつていて、わたしもこの教室でならいたいと思いました。わたしもこの教室でならいたいと思いました。

ならないはじめたころは、字の形がむずかしかったり、書きじゅんをまちがえたりしていたけど、先生にたくさんアドバイスをしてもらいながら、前よりも字をきれいに書くことができるようになったと思います。

字をきれいに書けたときは、先生がたくさんほめてくれます。わたしは、この書き方教室に通い字の書き方をならつて本当によかったです。

また、学校での書きそめんでは、書き方教室でたくさんれんしゅうした字を書いて、一年生と二年生のときにはぎんしょうをもらうことができました。少しづつしゅう字をならうようになって、今は本かくてきにしゅう字をならうようになりました。

三年生からは、書きそめんがしゅう字にかわります。これからもしゅう字をたくさんれんしゅうして金しょうがもらえるようにがんばりたいで